

高速交通網調査特別委員会資料

(平成26年7月3日)

ページ

- 1 高速鉄道に関する先進事例の調査について (交通政策課)・・・1
- 2 平成26年度県内空港国内便の利用状況等について (交通政策課)・・・4
- 3 北海道、沖縄での航空便利用促進PRキャラバンの実施について (交通政策課)・・・6

地域振興部

高速鉄道に関する先進事例の調査について

平成26年7月3日
交通政策課

1 取組内容

ミニ新幹線、フリーゲージトレイン等の先進地の事例調査や情報収集を行っているところ。

- (1) 5月中旬 フリーゲージトレインの開発状況等について情報収集するとともに、九州地域の取組状況を聞き取り。
- (2) 7月中旬 ミニ新幹線（山形新幹線）について現地調査を予定。
- (3) 7月～8月 上記の調査結果を踏まえ、県内鉄道にあてはめた場合の整備条件を整理。
- (4) 9月～10月 県内の条件整備について専門家のチェック、意見聴取。
- (5) 11月以降 県内鉄道高速化の姿とその場合の経済効果を検討。

2 調査の状況

(1) 九州新幹線鹿児島ルート・博多～熊本の状況

○熊本県（交通政策課）から聞き取り。

- ・熊本駅停車は121本/日、大阪直通は46本/日。
- ・時間短縮効果は開業前と比べて熊本～博多間で40分の短縮、熊本～新大阪間で59分の短縮。
- ・開業前の特急と比べた利用者数は、博多～熊本間で140%、熊本～鹿児島中央間で161%。
- ・九州新幹線全体の平均乗車率は、博多～熊本間：40%、熊本～鹿児島中央間：34%。
- ・経済波及効果は、H23年度：195億円、H24年度：44億円、H25年度：219億円。

(2) 九州新幹線西九州ルート（新鳥栖～長崎）の状況

○新鳥栖～長崎間の整備経緯や状況について、長崎県（総合交通対策課）から聞き取り。

- ・フリーゲージトレインを導入し、新鳥栖～武雄温泉間は在来線を、武雄温泉～長崎間はフル規格新幹線（標準軌）を走る。
- ・西九州ルートの総事業費は約5,000億円。
- ・実質的な長崎・佐賀両県の地元負担は、総額約917億円で、両県の負担割合は区間総延長で按分。
※地元市（長崎市、諫早市、大村市）も県が負担する一部を負担する。
- ・上記地元負担以外に、並行在来線の施設（線路、駅舎等）は新幹線開業時にJR九州から14億円で譲り受け、長崎・佐賀の両県で維持管理を行う予定。
- ・開通後の効果試算は以下のとおり。
 - ① 長崎～博多間は現行特急と比べて28分の短縮。
 - ② 長崎県～福岡県間の需要予測は約1.3倍、長崎県～関西圏は約1.2倍。
 - ③ 経済波及効果は年間約70億円。

(3) フリーゲージトレイン（FGT）の開発及び施設整備等の状況

長崎～博多間で走らせようとしているFGTの車両開発状況、軌間変換装置等の施設整備及び走行試験の状況を独立行政法人鉄道・運輸施設整備支援機構から聞き取り。

(ア) フリーゲージトレイン（FGT）（軌道可変電車）の概要

新幹線（標準軌1,435mm）と在来線（狭軌1,067mm）など異なる軌間（ゲージ）を直通運転できるよう、車輪の左右間隔を軌間に合わせて自動的に変換する電車。

新幹線と在来線の乗換えが不要となることによって利便性が向上し、また、在来線の軌間を変更（軌間の拡大）する必要がなく、既存の施設を有効に活用することができる。

<施設条件>

- ・両輪幅を変換するためには、軌間変換装置（約 100m）を含め直線で約 1 kmの軌道が必要でこの間の通過に約 3分を要する。
- ・新幹線への接続線建設には、6 年程度を要する。

<車両開発>

- ・目標値等は次のとおり。
 - 新幹線（標準軌）における走行性能
 - 時速 270km 以上で安全・安定走行ができること。
 - 在来線（狭軌）における走行性能
 - 直線部において、時速 130km で安全・安定走行ができること。
 - 曲線部において、現行特急車両と同等の速度で安全・安定走行ができること。

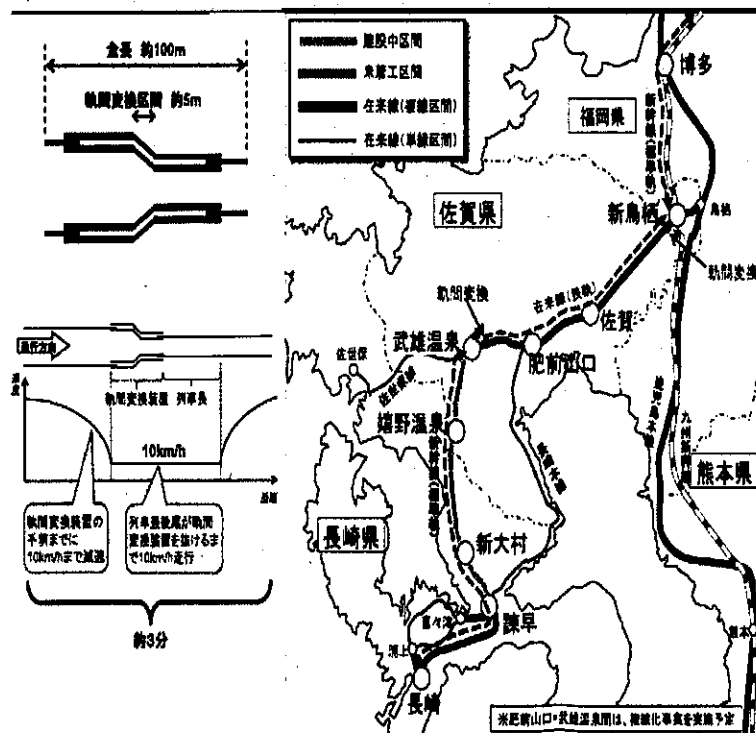
<走行試験の状況>

- ・電動台車で安全な軌間変換技術が確立した。
- ・開発車両の重量は炭素繊維等の使用により軽量化が図られ、曲線部において現行特急並みの走行速度を確保した。
- ・平成 26 年 2 月の軌間可変技術評価委員会において軌間可変台車の基本的な耐久性能の確保に目処がついたと判断。
- ・平成 26 年度から平成 28 年度まで、新型試験車両による新幹線、軌道変換、在来線を繰り返し走行する耐久走行試験（60 万 Km を走り込む）を実施。
（九州新幹線、新八代接続線（軌間変換）、鹿児島本線（在来線）を繰り返し走行）

(1) 今後の予定

- ・平成 34 年度の開通を目指す九州新幹線長崎ルートでの実用化を図る。

九州新幹線(長崎ルート)におけるフリーゲージトレイン



3 国の調査状況

(1) 平成25年度

【H25 予算額】 鉄道整備等基礎調査委託費 [国費：0.9億円の内数]

【事業内容】

- ・全国の鉄道ネットワークの現状について整理した上で、真に必要な施策に重点化を図り、利用者のニーズに応じていくために必要な調査。
- ・個々具体の路線についてインフラ整備に向けた調査を行うものでなく、高速鉄道網のあり方など基礎的な要素調査を行うもの。

【調査状況】(国土交通省鉄道局から聞き取り) ※調査結果は非公開

① 幹線鉄道(在来線で特急が運行しているような路線)の現状整理

- ・各路線の最高速度、表定速度、過去の変遷

② 利便増進方策の事例調査

- ・JR各社における取組

③ アンケートの実施

- ・全国で4,000~5,000人を無作為に抽出し、鉄道の利用経路、利用目的、利用しない場合の問題点、改善点などについてのアンケート

(2) 平成26年度

【H26 予算額】 鉄道整備等基礎調査委託費 [国費：0.9億円の内数]

【事業内容】

- ・在来幹線鉄道は、地域間の連携強化や地域の活性化を図る上で重要な役割を果たす一方、利用者からは高速化や利便性の向上が求められている。そこで、全国の鉄道ネットワークの現状や利用者のニーズ等を踏まえ、真に必要な施策に重点化を図るため、実情に即した検討を行う上で必要となる調査を行うもの。

【調査状況】

- ・具体の調査内容は整理中であり、未だ着手していない。

平成26年度県内空港国内便の利用状況等について

平成26年7月3日
交通政策課

鳥取空港及び米子鬼太郎空港の利用実績は以下のとおり。

1 県内航空便の利用状況

(1) 6月の利用状況(全日本空輸速報値) ※確定値は変動可能性有。 ※スカイマーク公表は7/10頃予定。

①鳥取空港(全日本空輸)

・鳥取-東京 搭乗者数 25,744人、搭乗率 54.0% (前年同月 搭乗者 26,425人、搭乗率 65.4%)

②米子鬼太郎空港(全日本空輸)

・米子-東京 搭乗者数 35,047人、搭乗率 60.5% (前年同月 搭乗者 43,471人、搭乗率 72.5%)

(2) 5月末までの利用状況(確定値/4~5月合計)

①鳥取空港(全日本空輸)

・鳥取-東京 搭乗者数 54,442人、搭乗率 55.0% (客数対前年比 1,100人増、102.1%)

②米子鬼太郎空港(全日本空輸)

・米子-東京 搭乗者数 73,356人、搭乗率 52.6% (客数対前年比 3,543人減、95.4%)

③米子鬼太郎空港(スカイマーク)

・米子路線全体

・米子-成田(2便)	搭乗者数 9,923人、搭乗率 29.5%	
・米子-神戸(2便)	搭乗者数 14,584人、搭乗率 34.0%	※茨城便を含む
・米子-羽田(2便)	搭乗者数 23,744人、搭乗率 56.4%	
・米子-新千歳(1便)	搭乗者数 5,418人、搭乗率 25.1%	
・米子-那覇(1便)	搭乗者数 9,553人、搭乗率 44.2%	

2 4~6月の利用動向

- ・出雲大社平成の大遷宮をきっかけとした山陰旅行需要には全体的に一服感が出てきているものの、航空便を利用した来県者数全体は、スカイマーク就航前の昨年と比較して1.5~2倍に増加している。
- ・ANA鳥取便は5便化され、利便性が向上したこともあり、搭乗者数は増加傾向にある。
- ・ANA米子便は6便化が継続されたものの、利用者はやや減少している状況である。
- ・スカイマーク路線分は新たな航空利用の創出に繋がっており、地域に与える寄与度は大きい。
- ・就航から半年が経過した成田、神戸、茨城線は地域での認知度も高まり、夏の観光シーズンに向け徐々に増加し定着化傾向にある。
- ・4月就航の羽田線は既に一定の搭乗率を確保しており、新千歳、那覇路線も観光シーズンに向け徐々に増加傾向にある。

3 利用促進の取組

(最近の取組)

- ・夏以降の旅行需要増加に向け、各就航先でのPRキャラバン(札幌(6/6-7)、茨城(6/14-15)、那覇(6/20-22))、地元での路線周知(街頭PR(6/7)、美保基地航空祭(6/8))等を精力的に実施した。
- ・楽天、じゃらん等WEB系旅行会社と連携した誘客対策の強化、鳥取市及び米子市の地域情報紙、関西地域新聞等への航空路線PR等を実施している。
- ・航空会社と連携した取組として、スカイマーク便の情報を集約したポータルサイトの構築や「うっとり鳥取キャンペーン(ANA鳥取美人物語)」を継続実施している。

(今後の予定)

- ・羽田空港で但馬地域とも連携の上、観光及び航空路線のPRを実施予定(7/4-6)。
- ・首都圏だけでなく神戸経由での誘客も念頭にPRキャラバン等を検討していく。
- ・航空会社と連携した各就航先での情報発信、搭乗対策を実施していく。

〈参考〉

県内国内便の利用状況について

1 6月の利用状況 (ANA 速報値) ※確定値は変動する可能性有り。

鳥取	搭乗者数 (人)	25,744
	(前年比%)	(97.4)
	搭乗率 (%)	54.0
	(前年搭乗率%)	(65.4)

米子	搭乗者数 (人)	35,047
	(前年比%)	(80.6)
	搭乗率 (%)	60.5
	(前年搭乗率%)	(72.5)

※スカイマークの利用状況は7/10頃公表予定。

2 搭乗者数及び搭乗率 (4・5月末の確定値)

(1) 鳥取空港

ANA鳥取-東京便 (5便/日) ※昨年は4便/日

4月	搭乗者数 (人)	25,561
	(前年比%)	(100.5)
	搭乗率 (%)	51.2
	(前年搭乗率%)	(60.0)

5月	搭乗者数 (人)	28,881
	(前年比%)	(103.5)
	搭乗率 (%)	58.8
	(前年搭乗率%)	(65.9)

(2) 米子鬼太郎空港

ANA米子-東京便 (6便/日) ※昨年は5便/日

4月	搭乗者数 (人)	33,213
	(前年比%)	(98.7)
	搭乗率 (%)	48.9
	(前年搭乗率%)	(65.1)

5月	搭乗者数 (人)	40,143
	(前年比%)	(92.8)
	搭乗率 (%)	56.1
	(前年搭乗率%)	(78.1)

スカイマーク

(米子-成田便)

4月	搭乗者数 (人)	4,481
	搭乗率 (%)	22.2

5月	搭乗者数 (人)	5,442
	搭乗率 (%)	40.5

(米子-神戸便) ※茨城経由含む

4月	搭乗者数 (人)	6,216
	搭乗率 (%)	29.3

5月	搭乗者数 (人)	8,368
	搭乗率 (%)	38.8

(米子-羽田便)

4月	搭乗者数 (人)	10,711
	搭乗率 (%)	53.1

5月	搭乗者数 (人)	13,033
	搭乗率 (%)	59.4

(米子-新千歳便)

4月	搭乗者数 (人)	1,983
	搭乗率 (%)	18.7

5月	搭乗者数 (人)	3,435
	搭乗率 (%)	31.3

(米子-那覇便)

4月	搭乗者数 (人)	4,913
	搭乗率 (%)	46.3

5月	搭乗者数 (人)	4,640
	搭乗率 (%)	42.3

北海道、沖縄での航空便利用促進PRキャラバンの実施について

平成26年7月3日
観光戦略課・交通政策課

4月に新規就航したスカイマークの新千歳、那覇、羽田空港から米子鬼太郎空港への直行便やANAの増便に伴い、本県への誘客を図るため、次のとおり北海道、沖縄において観光PRを実施しました。

1 北海道（新千歳）でのPRキャラバン

- (1) 期 日 平成26年6月6日（金）～7日（土）
(2) 参 加 とっとり観光親善大使 稲井巳幸
皆生つるや 女将 宇田川智恵（皆生温泉）
三楽荘 若女将 御船静枝（三朝温泉）
米子空港利用促進懇話会
鳥取県観光連盟、県



(3) 概 要

○6月6日（金）：10：00～17：00

メディア及び旅行会社を訪問し、観光素材をPRするとともに、県内旅行商品の造成を依頼。

※訪問先：北海道新聞、道新観光、JTB北海道、日本旅行北海道札幌支店、名鉄観光札幌支店、HIS札幌本店、北海道教育委員会、近畿日本ツーリスト札幌支店、阪急交通社札幌支店、読売旅行札幌営業所、トップツアー札幌支店、クラブツーリズム北海道旅行センター

○6月7日（土）：10：00～17：00

新千歳空港国内線旅客ターミナル2Fセンタープラザに観光PRブースを設置し、空港利用者へのパンフレット・チラシ（1,000セット）、ノベルティ配布、抽選会による「鳥取すいか」プレゼント、名探偵コナン・ゲゲゲの鬼太郎着ぐるみの撮影会等を実施。

2 沖縄（那覇）でのPRキャラバン

- (1) 期 日 平成26年6月20日（金）～22日（日）
(2) 参 加 とっとり観光親善大使 稲井巳幸
鳥取県旅館おかみの会 会長 藤井 美紗子
皆生つるや 女将 宇田川智恵（皆生温泉）
米子空港利用促進懇話会
鳥取県観光連盟、県



(3) 概 要

○6月20日（金）：13：00～17：00

メディア及び旅行会社を訪問し、観光素材をPRするとともに、県内旅行商品の造成を依頼。

※訪問先：沖縄タイムス、琉球新報、阪急交通社沖縄支店、中央ツーリスト、JTB沖縄、ジャンボツアーズ、沖縄ツーリスト、HIS那覇国内営業所

○6月21日（土）：10：00～16：00 ※那覇空港は22日（日）もブースを出展

那覇空港国内線旅客ターミナル2Fウェルカムホールに観光PRブースを設置し、空港利用者へのパンフレット・チラシ（500セット）、ノベルティ配布、抽選会による「鳥取すいか」プレゼント、トリピーによる写真撮影会等を実施。

また、同時にイオン那覇店において、観光大使、県内旅館女将による観光PRを実施。那覇空港同様にパンフレット・チラシ（1,500セット）、ノベルティ配布、抽選会による「鳥取すいか」プレゼントを実施。

3 今後の予定（羽田空港第二ターミナルでのPRキャラバン）

- (1) 期 日 平成26年7月4日（金）～6日（日）
(2) 参 加 とっとり観光親善大使、県内温泉・湯村温泉旅館女将、空港利用促進懇話会、県など
(3) 概 要 各日10：00～17：00まで、ブース出展による鳥取県航空路線・観光PRを実施